

社說

# 海軍擴張の國是と 定む可し

は如何にして現在の體に安んずるとと附べんや英國の如き英國民は海軍の事を以て單に當局者に一任せす實業界の中心とも見る可き商業會議所は常に艦隊の主唱者と爲り一方には政府を刺繡し一方には國論を喚起

明治三十一年  
九月三號

及北海道廳巡査服制ノ件ヲ裁可シ茲ニ之  
年一月七日 拓殖大臣 子爵萬國勳之助  
第三百六十八號巡査服制ハ、北海道廳巡査服制ハ、  
本令ノ施行原則ハ、拓殖大臣之ヲ

◎ 豊太閣榮華物語

卷之四

(第十五回) 然るに此處に秀吉公が殊の外重きを置いて御寵愛あら  
せらるし淀の御方と申すは近江國小谷の城主淺井備前  
守長政の娘にしてその母君は小谷の方と申して實は信  
長公の御妹に渡らせられます、されば秀吉公の爲め  
には淀君は主人筋の御方なり、淺井長政の滅びも後を  
の母公は三人の女子と連れて柴田勝家を便りましたが  
柴田勝家滅亡後は栗原太郎次郎なるものと組みに依つ  
て右の三人は専ら秀吉公の手門に於て成長なしの一人  
人は京極半舟高次の靈となり常光院と稱へ今一人は佐  
治與九郎の妻と相成り立したが秀吉公様に之と取扱ひ  
て丹波少將秀勝の夫人に致しました、然るに其後また  
之を徳川二代の將軍秀忠公に嫁せしめ榮源院と稱  
へたるは此れ方でござる、で其其實が漢君と相成る事  
ので秀吉公の寵愛ある者と稱する其た娘ん女しく尚ん  
と御寵愛する事力がありました、臣下の者は寧ろ秀